

# 接尾辞<sup>ケ</sup>の非断定的用法

言語学・応用言語学研究室

1 LT13122K

2013(平成 25)年入学

原菜々子

2017(平成 29)年 1 月提出

## 要旨

本論文は接尾辞ゲの用法について考察したものである。接尾辞ゲは、前接する語の印象をやわらげ、対象の雰囲気であらわす語であり、先行研究では、2種類のゲがあるということが指摘されてきた。1つめのゲは、「視覚でとらえられる対象の雰囲気を表すもの」という機能を持つ。これは、ソウと置き換え可能であり、前接する語の様子を完全に確認・知覚していない場合のものである。2つめのゲは、「婉曲的に修飾する表現」である。これは、ソウとの置き換えが不自然であり、前接する語の様子を完全に確認・知覚していても使用できる。従来の研究ではこの2種類のゲについてしか言及されていないが、本論文では、このどちらにも当てはまらないゲの第3の用法があることを主張する。これは、「前接する語の状態が100%ではないが、その状態に近いことを強調する」という意味を持つものであり、ソウとの置き換えが不自然で、前接する語の様子を完全に確認・認知したあとに使用するものである。

1 . はじめに.....	1
2 . 先行研究.....	2
2.1 . 中村(2000) .....	2
2.2 . ケキゼ(2002) .....	3
2.3 . 黄(2004) .....	4
2.4 . 漆谷(2010) .....	4
2.5 . ゲのまとめ.....	4
3 . ゲの分類【ゲ1・ゲ2】 .....	6
3.1 . ゲ1 .....	6
3.2 . ゲ1まとめ.....	7
3.3 . ゲ2 .....	8
3.3 . ゲ2まとめ.....	9
4 . 問題点.....	10
5 . ゲの分類【ゲ3】 .....	11
5.1 . ゲ3 .....	11
5.2 . ゲ3まとめ.....	12
5.3 . ゲの分類まとめ.....	12
6 . ソウの先行研究.....	13
6.1 . 寺村(1984) .....	13
6.2 . 菊地(2000) .....	13
6.3 . 木下(2001) .....	15
6.4 . 中村(2000) .....	15
6.5 . 黄(2004) .....	15
6.6 . ソウのまとめ.....	15
6.7 . ゲとソウの相違点.....	16
7 . おわりに.....	17
7.1 . まとめ.....	17
7.2 . 今後の課題.....	17

## 1. はじめに

接尾辞のゲは、「対象の様子を直接的ではない形で表す」という意味を持っている。漢字で書くと「気」であり、広辞苑第五版では「外から見て推測されるけはい・様子・感じ・傾向などの意を表す」と説明されている。

- (1) a. 子どもたちが積み木で楽しげに遊ぶ。
- b. 彼女は何か言いたげな顔をしていた。
- c. 彼女は私を見て優しげに笑った。
- d. あの黒い服の人は怪しげな感じがする。

(1)は様態の助動詞ソウとも置き換えができるものである。

- (2) a. 子どもたちが積み木で楽しそうに遊ぶ。
- b. 彼女は何か言いたそうな顔をしていた。
- c. 彼女は私を見て優しそうに笑った。
- d. あの黒い服の人は怪しそうな感じがする。

先行研究において、接尾辞ゲは様態の助動詞ソウ（ソウダ）と比べられ論じられることが多かった。それは、両者が似た意味を持っているために置き換えられる場合が多いからだ。

しかし、ソウには置き換えられない、ゲ特有の用法もある。以下がそれだ。

- (3) a. どこか怪しげな英語をしゃべる人がいた。
- b. 涼しげな美人が歩いている。

(3)は婉曲的な表現である。それぞれ、ゲをソウに置き換えてしまうと、婉曲ではなく、対象の様子を間接的に表すものとなる。例えば、(3b)の「涼しげな美人」は「目元などがスッとしていて全体的に落ち着いているしっとりとした美人」を連想できると思うが、これが「涼しそうな美人」となると、「軽装で汗をかいていない快適そうな美人」という意味のほうがより自然となってしまふ。

本論文では、ゲ独自の用法について、ソウと置き換え出来るかどうかも考えながら、明らかにし、それを分類することを目標とする。また、これまでの研究では特に触れられていなかったゲの用法にも着目する。

## 2. 先行研究

接尾辞ゲについて論じたものには、中村(2000)、ケキゼ(2002,2003)、黄(2004)、漆谷(2010)などがある。どれも、ゲをソウと比較させながらその意味を考えているものである。どの論においても、ゲはソウより使用される場面が少なく、間接的な表現をし、感情を表す語に比較的多く接続すると考えられている。それぞれの論文を見ていこう。

### 2.1. 中村(2000)

中村(2000)は、ゲの意味を<問題の感情が気配として感じられる[中村 2000:75,13-14]>と説明する。

ゲは、感情を表す形容詞に接続されるものと、属性を表す形容詞に接続されるものの2つに大きく分けられる。

感情を表す形容詞に接続されるゲはソウと置き換えが可能な場合が多いが、表現主体に知覚できない感情や感覚が文中に存在していないとき、置き換えは不自然になる。

- (4) a. ご飯の他にはみそ汁と漬物しか並んでいない寂しげな食卓であった。[中村 2000:76,(22)]
- b. どこか子供のころを思い出させる懐かしげな風景である。[中村 2000:76,(23)]

(4)は、表現主体が「寂しさ」や「懐かしさ」を感じており、表現主体が知覚できない感情や感覚が文中には含まれていないため、ソウとの置き換えが不自然である。このことについて中村(2000)はソウが<話者が知覚できない感情や感覚を予想する>という意味をもっているためだと説明する。[中村 2000:75-76]つまり、予想する余地のある表現はソウと置き換えができ、予想できない自己の感情や事実についての表現はソウと置き換えができないのである。たしかに(4)は、それぞれ話者の感情にゲが接続されており、その感情は予想する余地など残されていない自らのものであるため、ソウとの置き換えが不自然である。

属性を表す形容詞に接続されるゲは、ゲが無標の形式となっても容認される場合と、されない場合がある。

- (5) a. いかにも弱々しげな秋の陽を受け、海の水は意外なほど綺麗だった。[中村 2000:78,(32)]
- b. 異国の若い女をまぶしげな複雑な気持ちで眺める。[中村 2000:79,(35)]
- (6) a. 貧しげな裸だった。(雪国)[中村 2000:79,(37)]
- b. 親しげな笑いをたたえた目を向ける。[中村 2000:79,(44)]

(5)は無標でも文意が通るもの、(6)は通らないものである。この現象が引き起こされる理由について、中村(2000)は今後の課題として明言を避けている。

次にゲが使用できない場面についてだが、まず、状況から明らかに感情が読み取れる文にはゲを用いることはできないとしている。

- (7) a. 男は母の死を聞いて悲しげに泣いていた。[中村 2000:75,(16)]  
b. \*男は母の死を聞いて悲しげに号泣していた。[中村 2000:75,(17)]

「号泣」している様子から男の悲しさは明らかなものだとわかるため、ここではゲの使用は適切でない。

ゲが使用できない場合としては他に、典型的な属性を表す形容詞(赤い、丸いなど)の接続する場合がある。[中村 2000:79,4-7]

## 2.2 . ケキゼ(2002)

ケキゼ(2002)は、アンケートの結果からゲを<感情・感覚><性格・属性><婉曲>の3つの用法に分類している。

<感情・感覚>は対象の表面にその感情や感覚が表れること(知覚できること)が条件となっている。[ケキゼ 2002:11,2-6]

- (8) 子どもたちは庭で楽しげに遊んでいます。[ケキゼ 2002:11,(18)]  
(9) 明日、レストランで食事してカラオケに行くの。  
\*楽しげだね。[ケキゼ 2002:11,(19)]

ケキゼ(2002)の考え方で説明すると、(8)は、子どもたちの様子から楽しいという感情が知覚できるためゲを使用できるが、(9)は「明日レストランで食事をして...」という話から表面的に楽しい様子が知覚できないためゲは使用できない。

<性格・属性>は、対象の表面的様子に、その内面的特徴(性格や属性)が表れていることが条件となっている。[ケキゼ 2002:12,8-18]

- (10) やさしげな笑顔[ケキゼ 2002:12,(21)]

<婉曲>は、表面的様子の強調をしながら断定を避ける用法である。ケキゼ(2003)でも<やわらげ>としてこの用法は取り上げられている。

- (11) さっきから家の周りを怪しげな男がうろうろしている。[ケキゼ 2002:13,(22b)]  
(12) おぼつかなげな足取り。[ケキゼ 2002:14,(23b)]

また、ゲはソウに比べ生産性が低いことにも触れている。ゲが動詞につくのは「～ありげ」

くらいである。[ケキゼ 2002,18]

### 2.3 . 黄(2004)

黄(2004)は、ゲとソウの共通点を、両者ともに言語主体が対象にあらわれた状態を感じ取ることであるとする。[黄 2004:181,5]

異なる点は、ゲでは動作主の意志と関係なく、言語主体が自分の心の中で感じた状態を持って動作主の動作を修飾できるという点である。[黄 2004:181,5-8]つまり、相手の心情を予想せずにゲは使用できる、ということであろう。意図を表す副詞「わざと」が「～そうだ」とは共起できるが、ゲとは共起できないことからこの結論は導かれた。

また、ゲは言語主体が回想する中で、話題の人物について描写することができること、ゲはマイナス・イメージの語(怪しい、悲しい)に比較的多く接続することにも触れている。

### 2.4 . 漆谷(2010)

漆谷(2010)は中古から現代までのゲソウを通時的に研究している。中世でゲが主に使われていた場面は、時の流れと共に「～そうだ」が使われる場面へと置き換えられてきた。

そして現代、口語的なソウはゲよりも使用される場面が多い。どちらも、感情を表す語に接続しやすい。ゲは話し手の感想を表す。[漆谷 2010:239,16-21]

また、ゲが下接しない分野は、「味覚嗅覚・色彩・明暗濃淡・形状・対義語のある場合」である。ゲは「話し手・語り手の感想を述べるもの」であり、主体の五感に関わる心中を観察することができないためだと考えられる。情意や感想を差し挟む余地がない場合もゲが下接しない。[漆谷 2010:245,1-12]

### 2.5 . ゲのまとめ

ゲは、知覚できる(特に視覚)ものについて、雰囲気として感じられることを表す。未来を予想する表現ではない。婉曲表現として使用されることも多い。書きことば的で、ある程度決まった語に接続し、慣用句的な扱いをされることも多い。また、ソウに比べると生産性が低い。

話者が主に視覚として知覚できるものを表すが、話者が完璧に確認できていることについては接続しにくく、他者の感情など、明瞭でないことについて表す。

しかし、婉曲ややわらげとして使用される場合は、知覚されているかどうかはさほど重要ではないだろう。例えば、「悲しげな音楽」などは、対象となる音楽が話者に悲しさを抱かせていることは事実であると考えられる。

先行研究の中で、黄(2004)の論は、少々不明瞭な場面がある。まず、「わざと」とゲを共起させる例文で、黄(2004)の論に反するものを作ることができる。例えば「敵である私に対し、彼は周りにもわかるよう、わざと親しげに笑いかけた」などは自然に容認されるはずだ。また、プラス・マイナスに関わらず、ゲは様々な語に接続されており、マイナスの語に比較的

多く接続すると言い切ってしまうのは危険であると考え。そのため、これらの不明瞭な点をここからの考察には加えないこととする。



### 3. ゲの分類【ゲ1・ゲ2】

先行研究から、ゲは大きく「視覚でとらえられる対象の雰囲気を表すもの」と「婉曲表現」の2つに分けられるのではないかと考える。

以下、「視覚でとらえられる対象の雰囲気を表すもの」をゲ1、「婉曲表現」をゲ2と表し、それぞれについて詳しく説明していく。

#### 3.1. ゲ1

ゲ1は、前接する語の様子について、まだ明らかなものとは確かめられていないが、雰囲気として感じられる場合に用いられる。「まだ明らかなものとは確かめられていない」というのは、例えば、他者の感情や感覚、客観的判断がしにくいものなど、100%確実であると言いきることができないことをあらわしており、「雰囲気として感じられる」とは、見たり聞いたりする様子から話者が持つ感想についてあらわしている。

先行研究との関連をみていくと、まず、中村(2000)のソウと置き換えができる(表現主体が知覚できない感情や感覚に接続される)ゲがこれにあたる。ゲが無標となる形式でも、文として容認される。次に、ケキゼ(2002)はゲを3つに分類していたが、表面を表す<感情・感覚>と内面を表す<性格・属性>を今回は同じ分類にしている。

(1)、(6b)、(7a)、(8)、(11)、(12)などは、このゲ1の用法である。以下に再掲する。

- (1) a. 子どもたちが積み木で楽しげに遊ぶ。  
b. 彼女は何か言いたげな顔をしていた。  
c. 彼女は私を見て優しげに笑った。  
d. あの黒い服の人は怪しげな感じがする。
- (6b) 親しげな笑いをたたえた目を向ける。[中村 2000:79,(44)]<sup>1</sup>
- (7a) 男は母の死を聞いて悲しげに泣いていた。[中村 2000:75,(16)]
- (8) 子どもたちは庭で楽しげに遊んでいます。[ケキゼ 2002:11,(18)]
- (11) さっきから家の周りを怪しげな男がうろうろしている。[ケキゼ 2002:13,(22b)]
- (12) おぼつかなげな足取り。[ケキゼ 2002:14,(23b)]

先行研究で説明されているゲは、このゲ1である場合が多い。話者と動作主が異なっている場合が多いため、そこには予想する余地がある。そのため、ソウと置き換えが可能である。

- (13) a. 子どもたちが積み木で楽しそうに遊ぶ。  
b. 彼女は何か言いたそうな顔をしていた。

---

<sup>1</sup> 中村(2000)ではソウとの置き換えができないとされていたが、「親しそうな笑い」に大きな違和感はないため、本論文ではソウとの置き換え可能と判断した。

- c. 彼女は私を見て優しくそうに笑った。
  - d. あの黒い服の人は怪しそうな感じがする。
- (14) 親しそうな笑いをたたえた目を向ける。[中村 2000:79,(44)]<sup>2</sup>
- (15) 男は母の死を聞いて悲しそうに泣いていた。[中村 2000:75,(16)]
- (16) 子どもたちは庭で楽しそうに遊んでいます。[ケキゼ 2002:11,(18)]
- (17) さっきから家の周りを怪しそうな男がうろうろしている。[ケキゼ 2002:13,(22b)]
- (18) おぼつかなそうな足取り。[ケキゼ 2002:14,(23b)]

また、これらの例文は(1a)が「楽しげに遊ぶ=遊ぶのが楽しい」と考えられるように、動作主の感情や様子と動作主の動作が文中で表されている。前者をA、後者をBとすると、「Aゲに/な B=BがA」という構造を持っている。

(1b)や(7a)は機械的に解釈すると「何か言いたげな顔=顔が何か言いたい」「悲しげに泣く=泣くことが悲しい」となってしまうが、これは「顔が何か言いたい様子」「泣くことが悲しい様子」というようにBの部分に「様子」を補足すれば自然に感じられるだろう。Aに感情を持ちえないモノがくる場合や、(1b)のような「動詞タイ+ゲ」は、このような読み替えが必要である。以下にこの「Aゲに/な B=BがA」の構文をまとめる。<sup>3</sup>

- (19) a. 楽しげに遊ぶ = 遊ぶのが楽しい
  - b. 何か言いたげな顔 = 顔が何か言いたい (様子)
  - c. 優しく笑った = 笑い方が優しい
  - d. 怪しげな感じ = 感じが怪しい
- (20) 親しげな笑い = 笑い方が親しい (様子)
- (21) 悲しげに泣く = 泣くことが悲しい (様子)
- (22) 怪しげな男 = 男が怪しい
- (23) おぼつかなげな足取り = 足取りがおぼつかない

### 3.2 . ゲ1まとめ

ゲ1はソウと置き換え可能である。そのため、想像する余地が残っている必要があり、既に100%明らかとなっていることや現実となっていることには使用しにくい「Aゲに/な B=BがA」が成り立つ。

---

<sup>2</sup> 中村(2000)ではソウとの置き換えができないとされていたが、「親しそうな笑い」に大きな違和感はないため、本論文ではソウとの置き換え可能と判断した。

<sup>3</sup> 順に、(1)、(6b)、(7a)、(11)、(12)を参照してほしい。

### 3.3 . ゲ 2

ゲ 2 は、婉曲・やわらげ・比喩などの言葉によって説明され得る表現であり、対象を直接的でない言葉によって描写することで、その性格や様子、属性をやわらかく表すものである。本論文では婉曲と表現することにする。

これは既に視覚等で 100%完全に知覚することができた対象について表現をするものであるため、文中に何か予想をする余地というのは含まれない。よって、<話者が知覚できない感情や感覚を予想する>はたらきを持つソウとの置き換えは不自然である。4

先行研究との関連を見ると、中村(2000)のソウと置き換えができないゲがこれにあたる。無標の形式だと文意が通らないものが多いと思われるが、定かではない。また、ケキゼ(2002)の<婉曲>もこのゲ 2 にあたる。

(3)のゲがこれである。他に(5b)、(6a)もこのゲ 2 に分類されるであろう。以下、再掲する。

(3) a. どこか怪しげな英語をしゃべる人がいた。

b. 涼しげな美人が歩いている。

(5b) 異国の若い女をまぶしげな複雑な気持ちで眺める。[中村 2000:79,(35)]

(6a) 貧しげな裸だった。(雪国)[中村 2000:79,(37)]

(3b)の「涼しげな美人」というのは、美人が涼しいわけではない。このことについて、「ノースリーブやダメージ加工で穴を空けた服を着ている美人についても表せるのではないか」という意見を頂いたが、その場合はソウとも置き換えられるし、涼しいかどうかは美人本人にしかわからないため、ゲ 1 となる。

(24) 薄着で風通しの良い服を着た、快適そうな(恐らく涼しい)美人が歩いている。

(25) 目元がスツとしていて、ほっそりした清潔感のある美人が歩いている。

(3b)は、美人の様子がこちらに涼しさを感じさせていることを表すのである。「涼しげな美人 美人が涼しい」ということだ。つまりゲ 2 は「A ゲに/な B B が A」という構造になっているということである。A には話者自身の感情や感想が、B には感情を持ちえないモノがくることが多い。

他の例も見えていく。(3a)は「怪しげな英語 英語が怪しい」となるが、「英語が怪しい」というのは語としてよくわからないものであるし、「英語が怪しい様子」というふうに補足をしてはまだ不自然だ。(5b)の「まぶしげな気持ち 気持ちがまぶしい」も同じく、「気持ちがまぶしい」というのも、「気持ちがまぶしい様子」と補足するのも、どちらも不自然である。(6a)は「貧しげな裸 裸が貧しい」で、これは「裸が貧しい様子」だとある程度容認できそう

---

<sup>4</sup> 中村(2000)の考えに依る。

である。しかしこの「A ゲに/な B=B が A」の構造は動作主の動作と動作主の感情や属性の結びつきについて考えたものである。裸が貧相である様子というのはその体の持ち主以外にも共通の認識であり、100%完全に確認できるものと言える。また、ソウとの置き換えも不自然であるため、ゲ1とは言いがたい。

また、すでに明らかに知覚している対象についての表現である、というのは、対象となる「美人」の様子を話者が視覚で確認してから「涼しげ」であると判断していることから明らかだ。今回はゲ1のように対象の内情を察することなく、あくまでも自身の感情を表すためにゲを用いる。

無標の形式で文意が通るかどうかが定かではないとしたが、上の例文はすべて、無標の形式でもある程度の文意は通じるだろう。

(26) 彼は涼しげなセーターを着ている。

(26)も(3b)と同じように、ゲ1で考えるならば、「彼は薄くて風通しの良い、体感として涼しいであろうセーターを着ている」となるし、ソウと置き換えられる。ゲ2で考えるならば、「彼は色合いが青やグレーなどの冷たい色で、もこもこ・ふわふわとはしていない、あたたかみのないセーターを着ている」というように解釈できるだろう。

### 3.3 . ゲ2 まとめ

ゲ2は、ソウとの置き換えをしないものである。既に100%明らかに確認していることや、現実となっていることに使用できる。また、「A ゲに/な B=B が A」な成り立たない。

#### 4. 問題点

以上のように、先行研究からはゲを2つに分類できた。しかし、これまでの例文の中で、ゲ1・2では分類できないものがある。

(5a) いかにも弱々しげな秋の陽を受け、海の水は意外なほど綺麗だった。[中村 2000:78,(32)]

これはソウとの置き換えが不自然であるが、陽の光が弱いことは完全に確認できているし、しかし「弱々しげな秋の陽 = 秋の陽が弱々しい」となるので「Aゲに/なB = BがA」の条件にも当てはまる。

また、近年、ゲの使用の幅が広がってきた（規制が緩和されてきた）ように感じられる場面がいくつかある。

(27) 自分で撮った顔写真を加工して、きれいげな感じにした。

(28) (写りの良くない女優の写真を見て)

もっと美しげなものを選べばいいのに。

(27)、(28)はゲ1、ゲ2の条件に当てはまらない。(27)と(28)は、ソウとの置き換えは不自然ですすでに明らかになっていること・確認済みのことについて使うためゲ2のようであるが、「Aゲに/なB=BがA」であるためゲ1のようでもある。

(27)や(28)のような例は個人によって容認度にばらつきがあるが、容認されるとすると、ゲには、「前接する語のもつ雰囲気を表す」というより、「完全ではないが、前接する語に近いことを表す」という意味を持つものではないか。(27)は自分の顔が100パーセントきれいになることはないが、自分の基準とするきれいさに近づいたことを、(28)は今の写真よりももっと美しい写真を使えばいいのに、ということを表している。また、これと同じ用法として、以下のような例文も考えられる。

(29) あの子って顔はかわいげなのに、性格が本当に受け付けられないよね。

(29)は、きっとかわいいはずの「あの子」に対し、性格の悪さが気に入らないのでかわいいとは言いたくない、認めたくない、というような、心情が伝わってくるだろう。これは、ゲの「完全ではないが、前接する語に近いことを表す」の「完全ではない」部分を積極的に表したものであろう。

このように、「完全ではないが、前接する語に近いことを表す」用法のゲは、従来のゲと異なり、既に明らかとなっていることや現実となっていることに使用することができる。そのためこのゲをこれまでの分類とは違う分類の用法として考え、ゲ3とおいて考察を進めていく。

## 5. ゲの分類【ゲ3】

### 5.1. ゲ3

ゲ3は、ゲ1と同じく、前接する語の様子について雰囲気として感じられることを表すが、確認済みの事項に使い、予想する余地はないためソウとの置き換えをすると不自然なものである。確認済みのことについて表現するので、そこには「100%ではない・完全ではないが、いかにも前接する語の様子であること、その様子に近いことを強調する」という意味が含まれるのではないだろうか。(27)、(28)がこれである。視覚として捉えられることについて表現する場合が多い。無標の形式であっても文意が通じる。

(27) 自分で撮った顔写真を加工して、{きれいげ/\*きれいそう}な感じにした。

(28) (写りの良くない女優の写真を見て)

もっと{美しげ/\*美しそう}なものを選べばいいのに。

(27)は自分の顔が理想のきれいな顔になることは到底ないのだが、加工することで普段の顔よりも理想のきれいな顔に近づいたことを表す。(28)は、いつも美しい女優の顔があるとある写真ではそこまで美しくなく感じられるときに、写真よりももっと美しい写真があるだろうに、という気持ちを抱いたことを表している。

(30) a. 後姿だけなら美人げだね。

b. この手袋、入るけどちょっと小さげ。

c. その赤げな飲み物って何？

d. 前より髪が短げになったよね。

(30)も決して容認度が高いとは言えない文であるが、1つずつ解説をしていくと、(30a)は「後姿は美人に見えるけど前から見ると美人とは言えない」ということ、(30b)は「手袋の大きさが自分には小さいようだなあと控えめに表現している」ということ、(30c)は「相手の飲み物が赤っぽいけど完全な赤ではなくて、気になる」ということ、(30d)は「前髪が短いとは言わないけど前よりは短いかな、と伝える」ということ、をそれぞれ表している。

また、「良さげ」という表現をよく耳にしたり目にしたりするが、これはゲ1の「未確認のものへの予想」というよりも、ゲ3の「確認はしているが完全ではない」面を持つ表現として考えたほうが良い場合も多くあるのではないかと考える。

(31) a. この前描いた絵の評判が良さげで嬉しい。

b. この技、名前はかっこ良さげなのにださいね。

c. 12万円のプランより10万のほうがお得で良さげですね。

(31)についてもそれぞれ見ていくと、(31a)は「既に評判が良いことは確認済みであるが少し謙遜してそのことを伝えている」というものであり、(31b)は「名前はかっこいいことが明らかなのに、実際に技を見てみるとどうもへなちょこであるから、名前もかっこいいとは言い切れない」というもの、(31c)「10万円のプランのほうが明らかにおすすめであるが相手が12万円のプランのほうを好んでいるかもしれないし、良いとは言い切らない」というものである。

さらに、ゲ1・ゲ2でまとめた分類では処理できなかった(5a)も、このゲ3に分類できる。

(5a) いかにも弱々しげな秋の陽を受け、海の水は意外なほど綺麗だった。[中村 2000:78,(32)]

(5a)は一見ゲ1のように見えるが、「陽の光」は視覚として完全に確認済みであるし、ゲ1の条件の「ソウと置き換えられる」に違反する。しかし、これをゲ3の分類とすると、条件をクリアできる。つまり(5a)の「弱々しげな秋の陽」というのは、「陽の光が弱いこと」に焦点を置いているのではなく、光の不完全な弱々しさを強調することで「海の水の綺麗さ」の意外性を引き立てたかったのだと考えられる。以下の例文も、(5a)のような一見ゲ1に思えるものだが、ゲ3に分類できるものだ。

(32) 町民たちからは、大きな存在が舞台から退官することに感慨深げな声が聞こえた。[漆谷 2010:251,(3a)]

## 5.2 . ゲ3まとめ

ゲ3は、ソウとの置き換えしない。既に 100%確実に明らかとなっていることや、現実となっていることに使用する。また、「Aゲに/な B=BがA」が成り立つ。

## 5.3 . ゲの分類まとめ

それぞれをまとめると、以下のようになる。

用法	ソウとの置き換え	完全に確認されている	Aゲに/な B = BがA
ゲ1		×	
ゲ2	×	( )	×
ゲ3	×		

## 6. ソウの先行研究

ゲの分類にあたり、ソウとの比較を取り上げてきた。そのため、この章ではソウについてとりあげ、まとめたい。

ソウについての研究したものとして、主に寺村(1984)、菊地(2000)、木下(2001)などがある。ソウの基本的な意味を述べたのが寺村(1984)、それをより深く考察したのが菊地(2000)、ソウが成立する条件を探ったのが木下(2001)である。

### 6.1 . 寺村(1984)

寺村(1984)は、ソウを 予想・予感 と説明している。<sup>5</sup>

(33) この西瓜はうまそうだ。[寺村 1984:237,(38a)]

(34) 元気そうですね。[寺村 1984:255,(39a)]

予想・予感 について、寺村(1984)は「ある対象が、近くある動的事象が起こることを予想させるような様相を呈していること、あるいはある性質、感情が表面に表れていることをいう表現である。また、そのどちらであるかは、主としてそれがどの種の動詞、形容詞につくかによって、そして付随的に文脈・状況によってきまる[寺村 1984:239,2-5]」と説明している。更に、この用法のソウは、他の様態を表す語に比べて、「話し手が感覚でとらえた外界の様相、典型的には視覚に映じた様相を直感的に描写的にいう色彩が強く、頭の中で推量するという色彩が最もやすい[寺村 1984:239,6-8]」とも説明している。

伝聞 はゲとは重ならない意味を持つ用法である。その意味について寺村(1984)は、「ある事態について、自分は直接知らないが、他からこう伝え聞いたということを相手に伝える言い方である。その情報源は、特定の人でもいいし、漠然と不特定の人、世間というようなものでもよい。また、その事態の当事者であってもいいし、関係のない一般の人々でもよい。[寺村 1984:256,12-15]」としている。

### 6.2 . 菊地(2000)

菊地(2000)は、ソウを5つのケースに分けて説明している。

ケース1は、まだ現実のものとなっていない次の局面(次の絵)を思い描いて述べるものである。6以下に例文をあげる。

---

<sup>5</sup> この<予想・予感>のソウには、「雨が降りそうだ。」や「今にも転びそうだ」などの動詞につく「そう」も含まれるが、これはゲの意味とは重ならないものであるため、今回は深く触れることはしない。また、寺村(1989)の<伝聞>のソウについても同様である。

<sup>6</sup> このケース1もゲとは重ならないものであるため、これ以上の考察はしない。



- (35) 雨が降りそうだ。[菊地 2000:16,(1)]  
(36) 土井氏が指名されることになりそうだ。[菊地 2000:18,(5)]

ケース 2 は自分が直接経験していない場面を思い描いて述べるものである。

- (37) 彼らのことだから警察にお世話になったりしそうだな。[菊地 2000:18,(6)]  
(38) あの二人なら、ありそうな話ね。[菊地 2000:18,(7)]

ケース 3 は<自分が直接経験していない感情・感覚>を自分が経験したとすればこうだろうと  
思い描いて述べるものである。

- (39) A 君は就職が決まってうれしそうだ。[菊地 2000:16,(2)]  
(40) (人が持っている鞆を見て) 重そうだね。[菊地 2000:18,(8)]

ケース 4 はまだ判然としてはいないが、<やがて確認が得られたとした場合、その局面>では  
こう言えるだろう(そう判明するだろう)と思い描いて述べるものである。

「～といえそうだ」「～とってよさそうだ」「～と見られそうだ」などは、断定を避ける  
婉曲な表現として慣用化したものだ。

- (41) (店頭で商品のコートを見て)このコートは僕にはどうも小さそうだ。[菊地 2000:19,(9)]  
(42) (料理を見て)おいしそうだな。[菊地 2000:19,(12)]<sup>7</sup>

ケース 5 は<仮想世界>を思い描いて述べるものである。

- (43) (この地に)長くいると寂しくなりそうである。(田野村(35))[菊地 2000:20,(13)]

これらは寺村(1984)の 予想・予感 の内容に近いものであり、寺村(1984)の説明をより詳  
しくしている。

菊地(2000)は 5 つに分けたソウの意味を最終的にはまとめ、以下のように一般化させている。  
まず、「話し手がある<可能世界(=確認・確定された現実とは区別してとらえられた世界)>  
を思い描いて述べる」ということ、そして、「<現実>がそのような<可能世界>を思い描かせ  
るような性質をもっている(と話し手が感じ取っている)[また、<現実>がそのような性質を

---

<sup>7</sup> (42)はケース 3 と 4 とみられる。

持つことを話し手が描写する]」ということである。[菊地 2000:21,26-30]

これを基にしてソウが使用できない場面の説明もしている。例えば現実を現実として述べる場合や、思い描きやすさが高い(許容度が高い)場面である。

### 6.3 . 木下(2001)

木下(2001)は、まず、ソウを「真偽判断の結果について述べる形式」とし、発話時の話者自身の感情・感覚や確実な知識など明らかに真である事柄は「真偽判断」の対象とはならず、ソウダを用いて述べることはできない。[木下 2001:141,5-7]と説明している。

(44) (遠くに住む友人が直木賞を受賞した。)

\*念願の賞を受賞したのだ。うれしそうだ。[木下 2001:140,(5a)]

また、ソウが使える場合(真偽の判断ができる場合)に必要な根拠と結果を「関係的知識」と呼び、その「関係的知識」は相互に依存しつつ、まとまりがあるものとして存在する必要があると述べている。

### 6.4.中村(2000)

ソウの意味を<表現主体が直接には知覚できない他人の感情・感覚やものの属性の存在を予想させる特権が、知覚の対象になっている人やものに現れている[中村 2000:74,33-35]>としている。

### 6.5.黄(2004)

黄(2004)は、ゲとソウの共通点を、両者ともに言語主体が対象にあらわれた状態を感じ取ることであるとする。[黄 2004:181,5]

違いとして、「～そうだ」では、あらわれた状態が意図的につくられ、外見から感じられることを表すことをあげている。

### 6.6 . ソウのまとめ

ソウは、前提として話者が確認できていないことについて予想・想像するときに使われる表現であり、これはどの先行研究にも共通している認識である。また、その中でも特に、ある性質、感情が知覚できるもの(特に視覚)として表面に表れていることをいう表現である。動詞や形容詞など幅広い語に接続する。

一方、発話時に確認できていることや明らかなことを表すことはしない。また、先行研究では特に触れられていないが、典型的・客観的な語(赤い・丸い)には接続しにくい。

## 6.7 . ゲとソウの相違点

共通するのは、知覚できること、特に視覚として確認できることを表す<sup>8</sup>ということ、既に明らかとなっていることや現実となっていることには使用しにくい<sup>9</sup>こと(ゲ1との共通点)、また、典型的・客観的な表現には接続しにくいこと、これら3点である。

異なるのは、ソウは生産性が高く口語的、ゲは生産性が低く文語的である<sup>10</sup>ことや、ゲは婉曲ややわらげとしての使用が多いこと<sup>11</sup>、また、ゲは予想する余地のないことも表せるので、確認済みのことであっても婉曲ややわらげとして使用することがあることが挙げられる。

以上のことより、ソウはゲとよく似た意味を持つが、「視覚として確認できるが、はっきりとはしないため予想する余地がある」という面をソウのほうがより強く持っているのではないか。そのためゲ1は置き換えられ、ゲ2・ゲ3などの婉曲表現・確認済みの対象についての表現はしにくいのだろう。

---

<sup>8</sup> ほとんどの先行研究で同様のことが確認されている。

<sup>9</sup> 特に木下(2001)、中村(2000)の記述から読み取れる。

<sup>10</sup> ケキゼ(2002)や漆谷(2010)から確認される。

<sup>11</sup> 中村(2000)やケキゼ(2002)から確認される。

## 7. おわりに

### 7.1. まとめ

本論文では、接尾辞ゲの用法について、先行文献を参照しながら考えてきた。また、先行文献では触れられていなかった新たな使われ方についても考察した。

考察の結果、接尾辞のゲは、「視覚でとらえられる対象の雰囲気を表すもの」、「婉曲表現」、「完全ではないが、前接する語やそれに近いことを強調するもの」の3つに分類できた。それぞれゲ1、ゲ2、ゲ3と置いたが、ゲ1とゲ2は先行研究で触れられていたもの、ゲ3が新しい用法である。

それぞれの分類は、「ソウと置き換えられるか」「対象について100%明らかに確認しているかどうか」「Aゲに/なB=BがAの構造になっているか」の3つの基準に依った。「ソウとの置き換え」と「対象について100%明らかに確認しているか」というのは、どちらも、ゲが接続する言葉について想像する余地があるかないか、ということが関連している。そのため本来はどちらか一つだけでも基準として成り立つだろうが、「100%明らかに確認しているか」というのは抽象的でわかりにくいいため、今回は2つ用意した。

どれも話者の主観から成る表現であるが、ゲ3はその中でも特に客観性が低いものである。

### 7.2. 今後の課題

まず、ゲ3の容認度が低い場合が多々あるため、より多く様々な種類の使用例を集め、考察していく必要がある。また、中村(2000)が課題としてあげていた、ゲが無標の形式となっても容認される場合と、されない場合がある理由について、本稿においても明確にすることはできなかった。分類の方法についても、より明確で簡潔なものを探していきたい。以上が今後の課題である。

## 参考文献

- 漆谷広樹（2010）『接尾辞「げ」と助動詞「そうだ」の通時的研究』ひつじ書房
- 菊地康人（2000）「いわゆる様態の「そうだ」の基本的意味 あわせて、その否定各形の意味の差について」『日本語教育』107:16-25
- 木下りか（2001）「事態の隣接関係と様態のソウダ」『日本語文法』1(1):137-158
- ケキゼ，タチアナ（2002）「「げ」の意味分析」『日本語文法』2(1):3-21
- ケキゼ・タチアナ（2003）「現代日本語における表現の「やわらげ」～「そうだ」、「げ」、「ぼい」などの場合～」『言葉と文化』4: 293-306. 愛知：名古屋大学大学院国際言語文化研究科日本語文化専攻.
- 寺村秀夫（1984）『日本語のシンタクスと意味 2』くろしお出版
- 中村亘（2000）「接尾辞「げ」の意味・用法 「そう」との事態把握の違いを通じて」『早稲田大学大学院研究紀要，第3分冊，日本文学演劇美術史日本語文化』73-82. 東京：早稲田大学大学院文学研究科.
- 新村出（1998）『広辞苑第五版』岩波書店
- 徐民静（2002）「現代語の接尾辞「げ」に関する一考察」『日本語文化研究』4:15-26
- 黄其正（2004）『現代日本語の接尾辞研究』 広島：溪水社

## 謝辞

本論文を作成するにあたり、指導教官の上山あゆみ教授からは、お忙しい中、面談やメールで丁寧かつ熱心なご指導を頂きました。その他、九州大学文学部言語学・応用言語学研究室の皆さまをはじめ、多くの方に支えられこの論文を完成させることができました。本当にありがとうございました。